

図画工作科

松田由美子
谷本克典

1 図画工作科における「創発の学び」とは

造形とのかかわり

私たちは生活する場において常に造形とのかかわっている。幼い頃から身の回りにある造形を五感で感じ、形や色を受けとめたり、新たな発見に喜びを感じたりしながらその関係を深めてきた。日常の中で、私たちは、目の前の造形からよさや美しさを“感じ”たり、よさや美しさを感じる色や形でものを選び、組み合わせたりと、“考え、表現している”のである。このように造形から働きを受け、造形に働きかける双方向の関係を、図画工作科では「造形とのかかわり」ととらえた。

造形とのかかわりは、生涯にわたる連続した営みであり、一人一人にとって自由で、大きく開かれたものである。そのかかわりが豊かなものとなり、よさや美しさを心地よいと感じる体験が多いほど、生涯にわたって、そのよさや美しさを愛好する思いや、身のまわりの造形にかかわり続けようとする思いも育まれていくだろう。図画工作科の役割は、子どもの実態に応じて、意図的、計画的に造形との出会いをつくり、子ども一人一人の「感じ、考え、表現する」という自分らしさを大切にしながら、造形とのかかわりをより豊かで新しいものになるよう支援していくことである。

価値観と創造性

造形とのかかわりをつくり出すためには、何に対してどのようによさや美しさを感じるかという「造形に対する価値観を広げること」と、自らの価値観に合うものをいかにつくっていくかを考え、表現するという「創造性を培うこと」が不可欠となる。

自分らしさの追求

子どもは、自らの感覚を働かせ、自分らしい感じ方、見方をし、自分の思いに合わせて、納得のいく表現の仕方を考えたり、材料や用具を扱ったりしていく。そして、既存の価値観をもとに、他のいろいろな価値観との出会いを繰り返す中で、造形に対する価値観を広げていく。こうして広がった自分ならではの新しい価値観をもとに、自らの創造性を駆使して自分らしさを追求していく。これは様々な「ひと」「もの」「こと」にかかわり合い、多くの価値観、多くの表現と出会い、学びあう中でこそ実現されていく。そして、一人一人の造形に対する価値観や創造性が、集団としての価値観を広げ、創造性を培っていく。この繰り返しの過程の中で、より豊かで新しい造形とのかかわりがつくり出されていく。

創発の学び

以上のことをもとに、私たちは図画工作科における「創発の学び」を、以下のように定義した。

「ひと」「もの」「こと」にかかわり合い
より豊かで新しい「造形とのかかわり」をつくり出す営み

2 図画工作科における「学びを深めようとする思い」とは

学びを深めようとする思い

図画工作科における大切にしたい「学びを深めようとする思い」を以下のようにした。

「自分にとって新しいもの」「自分ならではのもの」を
つくりだそうとする思い

自分にとって
新しいもの

「自分にとって新しいもの」とは、他の様々な「感じ、考え、表現したこと

(行為も含める)」との出会いを通して、「これまでの自分」を振り返り、更新を繰り返しながら生み出した、自分にとってこれまでにない「感じ、考え、表現したこと(行為も含める)」である。そして、更新された新しい自分で、さらに豊かで新しい造形とのかかわりをつくっていくことになるだろう。

自分ならではのもの

「自分ならではのもの」とは、他とのかかわりの中で自分が育み、見出した、他の誰とも同じではない「感じ、考え、表現したこと」である。「自分ならではのもの」は自分の可能性の高まりを実感させるだけでなく、そのよさは集団の造形に対する価値観や創造性を高めていくことにもつながっていくと考える。

このように、一人一人がこの自分らしさをつくりだそうとする思いをもち、その実現に向けて自分の可能性を發揮しながら造形活動に取り組むことが、図画工作科における「創発の学び」を深めていくことになるだろう。

3 「学びを深めようとする思い」を育むために

(1) 比較を通して自分らしさの認識を促す

「自分にとって新しいもの」「自分ならではのもの」をつくりだそうとする思いを育んでいくためには、一人一人の中に常に「比較」という視点をもたせることが大切である。自分の感じ方や考え方、表現の仕方の変容は、「前の自分と今の自分との比較」「今の自分とこうなりたいと願う自分との比較」「自分と他(友達や提示例)との比較」を通すことで認識することができる。真につくりだす喜びや楽しさを味わうためには、その変容の中に、造形に対する価値観の広がりや創造性が培われたことを認めることが必要である。そして、その認識は、さらなる自分らしさの実現に向けての意欲となっていくだろう。

(2) 見取りと評価のフィードバックを生かす

*1 ふりかえりカードの使用については(3)で後述する。

子どもの「自分にとって新しいもの」「自分ならではのもの」をつくりだそうとする思いは、ふりかえりカード(*1)の記述からも読み取っていくことができるが、一人一人の前の表現と今の表現の比較からも見取ることができるだろう。「ひと」「もの」「こと」とのかかわり合いの中で、一人一人の子どもをとりまく場や素材、表現されたものが、その子どもの新たな表現を誘い出すものとして表現活動をとらえていく。そうして絶えず変化していく表現を注意深く見守り、思いのよさの表れを認める。また子どもが発する言葉、つぶやき、悩む表情、笑顔、表現に没頭している姿など、その瞬間その子どもになにが起こっているのかも大切にして見取りを行い、声をかけながら、子どもの中の変容をとらえていきたい。

また、子どもの価値観の広がりや、自分らしい創造性を培おうとする姿を、その場その場での声かけやふりかえりカードへのコメント、授業のふりかえりの交流などで、教師が個人に、そして集団に継続的に価値づけていく。そうすることで、学びの成就感や自分の表現を大切にする心情が高まり、子どもの中でそのよさが共有化されていくだろう。そして、子ども同士での認め合いが広がっていけば、自分らしい表現をした喜びはさらに大きく感じられるようになり、「自分にとって新しいもの」「自分ならではのもの」をつくりだそうとする思いの自己強化を促し、内面化につながっていくと考える。

(3) サイクルモデルを意識し 4つの場を活用する

*2 ここでの4つの場はそれぞれが独立し、順序立てて流れるとは限らない。互いに関係し合い、ある場が繰り返されたり、不連続にジャン

これまで造形活動の中に意図的につくってきた次の4つの場(*2)において、サイクルモデルを意識しながら、上述の2点を重点として、有効に機能させたいと考えている。

ブしたりする場合もあると捉えている
(本校紀要第 56~58 集を参照)。

*3 例えば、表現のための時間や空間の保証、必要な材料を自由に使える環境、表したいことに合わせた材料や用具の扱い方の提示である。

*4 最初に発想し、構想してきたことと比べてどうなのか、部分だけではなく全体としてみた場合どうなのか、今の自分でまだ試みられることはないのかなどを観点とする。

*5 相互鑑賞の際、鑑賞カードとして複写式メモパッドを適宜使用している。複写式なので、表現や取り組み方のよさを捉え記述したものは、その場で相手に渡すことができ、自身の手元にも残りふり返ることができる。

*6 方法としては、自らの感じたこと、考えたこと、表現したことをふりかえりカードや作品カード、作品の写真(途中過程も含めて)、相互鑑賞カードなどを活用する。

ア. 既存の価値観をもとに造形に働きかけ 自分の思いや意図を持つ場で

自分にとって新しい、自分ならではの表現を探究していくためには、まず、表現への期待と、様々な表現を試そうという意欲が必要である。そこで、働きかける対象は子どもにとって興味や関心をひくものであるか、その造形のよさ、働きかける行為の楽しさ、行為の結果生まれるよさを十分に感じられるかを大切にしたい造形との出会いをつくっていく。そして、さらに多様な表現の可能性を感じ取れるようにするために、働きかける対象から、それぞれが感じ、考えたことを表出し合う場を設ける。そこから、新たな、またはこだわりを認識した自分の思いや意図がつくられることになる。

イ. 自分の表したいことに合わせて 感じ 考え 自分らしい表現をする場で

子どもの自分らしさへの活動に教師も共感し、より積極的に表現に取り組めるように学習環境を整える(*3)。そして、それぞれの思いや意図を把握し、個々の自分らしさが集団で認められるような場をつくることで自分らしさの探求を支援していく。また、一人一人の提案や悩みを集団に広め、受けとめられるような場をつくることで、共に造形との新しいかかわりをつくり上げていこうとする集団の意識も高めていきたい。

ウ. 自分の価値観と他の様々な価値観を関連づけて

自分なりに新しい価値観を広げる場で

子どもは、感じ、考え、表現し、いろいろなかかわりから、また感じ、考え、表現し…と、そのつど結果を受け止め、判断しながら表現している。子どもの中では常に自分を見つめることが行われているが、ともすると狭い見方になる場合もある。そこで、造形活動の過程で、一人一人がその後の表現の指針となるものをもつことができるように、自分の表現を見つめ直す(*4)場を設ける。また、相互鑑賞する機会も適宜設け、互いのよさや表し方の工夫について、認め合い、アドバイスし合う(*5)。そんな中から、友達の表現や取り組みからも自分にはないよさや美しさに気づくことができ、価値観を広げていこう。また、広がった価値観の中でも、なおこだわりたい自分らしい表現を認識する機会にもなるだろう。

エ. 自らをふり返り 自分の価値観の広がりや創造性の高まりを認識する場で

これら一連の造形活動の途中、そして最後に自己評価活動(*6)を取り入れ、自己の学びを確認すること、またその要因を探ることを大切にしたい。自己評価活動を通して、表現の過程の中に点在する自分らしい表現のよさを見つけたり、悩んでいたことやそれが解決に向かう過程、変わっていった自分をふり返ったりしながら、自らの価値観の広がりや創造性の高まりを明らかにしていくことができるだろう。そして、それらを交流し、よさをつくり上げることができた要因を話し合う中で、働きかけ、働きかけられた、ともに学ぶ姿も大切な価値として位置づけさせたい。

4 実践例 —4年—

(1) 題材名 新種発見 “光の国から OO虫 あらわる!” (くらしをつくる)

- (2) 目標
- ・身のまわりにある、透き通る材料や反射する材料とその組み合わせから発想を広げ、体の部分や全体の美しさを考えて、いろいろと試しながら自分ならではの“光の国からやってきた虫”をつくることができる。
 - ・材料の特徴から、部分や模様で飾るものを選び、材料にあった切断や接合接着の方法が適切にできる。

(3) 指導にあたって

① 教材のとらえ

本題材は、ペットボトルを主材料とし、透き通る材料や反射する材料を用いて、自分ならではの「光の国からやってきた虫」を立体に表す学習である。これまでの立体に表す学習は、粘土やスチレンボードを用いた塔や、絵の具で石を着彩するという「どこから見ても美しい色や形」を大切にしていたものであった。本題材では、その色や形に加え、どこから見ても透き通ったり反射したりするという「光による美しさ」も追求しながら立体に表す。これは、子どもにとって初めてのことであり、その表現のためには、身のまわりの材料を「透き通る」「反射する」という視点で見つめ直すこと、立体としてどこから見ても美しくつくること、そして、材料の組み合わせを試しながら、自分ならではの美しさを見出すことが必要となる。

「光による美しさ」は、実際にいろいろな方向から光を当てて、その表現が自分の思いにあっているか常に試し、確かめることでしか味わうことができないと考える。これまで以上に自分の表現を見直し、自分の思いと比べながら製作していくことになるだろう。また、「光による美しさ」という視点を盛り込むことによって、これまでの色や形に対する造形的な価値観がより広がっていくと考える。さらに、より美しく「透き通る」「反射する」ために、そして材料の特性や丈夫さを考えたつくり方や材料にあった切断や接合接着の方法（主に樹脂や金属）が必要になってくるだろう。

製作過程を通してこれまでに感じたことのない材料のよさや可能性に触れることになる。それは、「自分にとって新しいもの」の気づきとなり、「自分ならではのもの」をつくっていかうとする意欲を高めていくものになるだろう。そして、一人一人の造形とのかかわりをより豊かに新しいものへと進展させていくものであると考えている。

② 本題材における「学びを深めようとする思い」

ア 「自分にとっても新しいもの」をつくりだそうとする思い

- ・「光」を生かして、これまでにない新しい考えをもったり、表現したりしようとする。
- ・初めの自分（表現）と今の自分（表現）を比べ、「透き通る」「反射する」という視点でよりよく進展してきた自分（表現）を見直そうとしている。

イ 「自分ならではのもの」をつくりだそうとする思い

- ・他とかかわり合いながら、「光による美しさ」「色や形」という視点で比較し、他とは違う自分だけの虫を表現しようとする。

③ 「学びを深めようとする思い」を育むために

これまで、子どもは図画工作科の学習を通して、色や形にこだわりながら学習を進めてきた。自分のイメージの具現化のために試行錯誤し、友達との相互鑑賞を経て自分にとってよりよいと感じられるものをつくりだしてきた。新しいクラスとして4月がスタートして2週間が経つ。子どもは、自分の思いや考えを全体に広めていくことでよりよい考えや新しい考えが生まれることを、少しずつではあるが感じ始めている。また、互いの意見を認め、時には主張し、ぶつかりながら、新しいものをつくらうとする姿が見られるように

なってきた。しかし、自分の思いを素直に表出するまでには至っていない。そこで、本題材を通して次の手だてをとりながら、図画工作科の学びを、そして、集団としての学びを深めていきたいと考えている。

まず、題材名や基本となる形（ペットボトルに足をつけた虫の基本形）から、イメージを膨らませ、表現の思いを高めていきたい。そのために、それぞれの“光の国からやってきた〇〇虫”について、それぞれが思ったこと、発想したことを全員で話し合う場を設ける。また、透き通らない・反射しない材料を用いてつくった虫を提示して光の国の虫をつくっていくための材料選びに意識を向けていきたい。さらに、基本となる虫をそれぞれのアイデアをもとに実際に教師の手で変化させて、それぞれの「光の国の虫」のイメージをみんなで共有できるようにしていく。ここでは、最初に思い感じたことと表現しようとしたことをメモし、話し合った後と比べ、話し合いによって発想や表現への思いが「よりよく」へ向けて変容していったことに気づくようにしていきたい。

これらの活動から自分の思いを表現するために大切にしたい次の3点に気づくようにしていく。まず「透き通る」「反射する」という視点で身のまわりにある材料を見つめ直すことである。次に、それらの組み合わせを試しながら自分ならではの美しさを見出すことである。そして、立体としてどこから見ても美しくつくることである。それらの気づきから、それぞれが具体的なめあてをもち、見通しをもって製作できるようにしていきたい。

そして、製作過程では、より“自分らしい”表現へ向けて進展できるようにそれぞれの表現を認めていきたい。相互鑑賞の場を適宜設け「光による美しさ」「色や形」を観点として、具体的には「材料選び」「接合接着」「どこから見ても」を視点に互いの表現やつくり方のよさを見つけ、それを認め、話し合いや複写式メモを用いて全体や個に広め、その後の自分の表現に生かすことができるようにしていく。また、つぶやきを取り上げたり、それぞれがもつ問題点を表出できるような場を設定したりしながら「うまく光が通らない」「きれいに接着したい」「こんなふうにしたいのだが材料が思い浮かばない」などの一人の課題が全体の課題となるようにし、みんなで解決のための方策を出し合うことができるようにしていきたい。

これらの活動を通し、自分の取り組み・作品を見直すための場として、投光器を取り付けたホワイトボードやクリアボードを設置する。そして、その場で実際に光を当て「光による美しさ」「色や形」を観点として自分の作品を見直そうとしている子どもの姿を評価し、その姿にある一人一人の思いを教師も認め、また、集団へと広めていくことで、学びを深めようとする思いのよさを感じとらせたいと考えている。

製作を通し、自他の作品から“感じ、考え、表現したこと”をふりかえりカードに綴ったり、製作途中の写真を用いたりなど自分の作品の初めと終わりを見比べる自己評価活動を取り入れる。自他の表現のよさやそこから感じたことや変容した要因を視点として自己評価活動を行っていく。また、複写式メモを用いての相互鑑賞の場も設定し、それらのことから「～さんの材料の使い方を取り入れたら自分だけの〇〇虫になった」「～さんにアドバイスをもらったから前よりもよりよくなった」など友達とのかかわりの中で自分の表したい「光の国の〇〇虫」へと変容していったことを全体場で出し合う。こうした場を繰り返し設定することで、自分自身の製作過程をふり返ったからこそ、そして、思いを表出し合うことができる集団で学んだからこそ、「自分にとって新しいもの」「自分ならではのもの」が生まれたことを感じ取らせたい。

学習の最後では、「学習を終えて変わった自分や新しく発見した自分について」問う。そのことは学習の最初から今に至るまでの自分の取り組みをふり返り、他とのかかわりを意識することになると考えるからである。さらに、そうした積み重ねをこれからの学習でも続けることで、様々な「ひと」「もの」「こと」とのかかわりの中で、新しい造形とのかかわりがつくり出されたことを感じ取ることができるようにしていきたいと考えている。

(4) 学習計画 (総時数 8 時限)

主な活動と内容	評価のポイント
<p>1 学習内容を把握する</p> <p>○題材名・基本となる虫から発想した自分のイメージを話し合い 自分の思いをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「光」というところがこれまでと違うぞ 光を通すものを貼ったり入れたらすれば… ・ビニルテープやポスターカラーマーカーじゃ「光の国から」にならないぞ ・羽や触角もつけたらいいと思うよ そうそうそんな感じ! 影もきれいだなあ <p>○大切にしたいことを話し合い 製作の見通しをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「どこから見ても」が大事だぞ 光が生きる「材料選びや組み合わせ」も重要だ ・いろんな材料をどうやって切ったり付けたりしたらいいのかな 接着剤でつける…「接着」 穴をあけたりしてつける…「接合」 光が生きる「接合接着」をしなければ! 材料に合った道具で切らないといけない ・全部合わせて考えたら「光で美しい」が大切だ <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">「光の国からやってきた〇〇虫」を「光で美しい」に気をつけてつく</p>	<p>これまでの経験をもとに題材名や基本となる形から発想した自分のイメージをもつことができる</p> <p>つくることを想起し「透過する」「反射する」を視点に材料の特徴を生かすこと どこから見ても美しいことに気をつけてつくる意識をもつことができる</p>
<p>○アイデアスケッチをする</p> <p>2 製作する</p> <p>○基本の形をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラスチックは熱で穴があくんだ アルミ線の長さを考えよう 窓につけてみよう ・どんな材料を集めたらいいのかな 「透過する」「反射する」を考えて集めよう <p>○材料の特徴を生かし 試しながら 確かめながらつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・透明カラーシートを貼ってみよう モールで触覚をつくってみよう ・光を通すときれいだな おはじきを目にしてみよう アルミホイルもおもしろいぞ ・セロハンを使ってみよう 中に詰めてみようか 外側に貼ろうか <p>○相互鑑賞し 互いのよさを見つけて製作に生かす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんの虫は光を通した色が混ざってきれいだ 中にも何か入れたらよさそうだ ・△△さんの羽に油性ペンで模様がついている 模様も光を通してきれいだ! ・△△さんのはわたしの虫の「反射する」がいいといってくれた がんばりたいな <p>○課題を見直し 製作する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料をもう一度考え直そう 試してみよう ・「接合接着」をもう少し丁寧にしよう <p>・だんだんと進化してきたぞ 自分のイメージにだんだんと近づいてきたよ</p>	<p>友達や前の自分と比べ「透過する・反射する」という視点で自分の表現を見直している</p> <p>様々な角度から全体の光による美しさ・色や形を確かめながらつくっている</p> <p>ペットボトルやアルミ線の形成を形よく丈夫に行っている</p> <p>材料の組み合わせを考えて 部分や全体の美しさを表している</p> <p>材料を選び 材料にあった切断や接合接着ができています</p> <p>他とかわかり合いながら「光による美しさ」「色や形」といす視点で比較し 他とは違う自分だけの虫を表現している</p>
<p>3 活動をふり返り まとめをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大切にしたいことに気をつけて取り組めたよ だから“自分だけの”虫になったよ ・初めはなかなか「光で美しい」虫にはならなかったけど 何度も試してつくったから いい「光で美しい」虫になったよ ・前と比べてみることで変わってきた自分を見つかることができたよ ・わたしのおかげで〇〇さんはよりよくなったって言っていた うれしいな ・みんなの作品を集めて「光の国の虫博物館」をつくろう! どこに飾るといいかな 	<p>大切にしたいことを視点に 自分ならではの虫の互いのよさや美しさを味わっている</p>

(5) 本題材における授業の実際と考察

子どもが積極的に題材とかかわり、「学びを深めようとする思い」を育みながら学びを高めることができるのかを本実践をもとに検証していく。そのために、実際の授業の流れをたどりながら、設定した「学びを深めようとする思い」の現れを見取り、「学びを深めようとする思いを育む」ための手立て(教科論 3 学びを深めようとする思いを育むために)を観点として考察していく。作品や毎時間の子ども一人一人の思いと表現の過程を残したカード、日記、教師が残した一人一人の子どもの学習の内容や様相などの記録をもとに考察を進めていきたい。

考察を進めるにあたり、学習活動を以下の3つに分けて述べていくこととする。

- ① 学習内容を把握し、題材へのかかわりを広げる活動【学習計画：A (教科論 3-(3)-ア、ウ)】
- ② 材料の特徴を生かし、試したり、確かめたりし、互いのよさを生かして表現する活動【学習計画：B (教科論 3-(3)-イ、ウ)】
- ③ 自らの学びをふり返る活動【学習計画：C (教科論 3-(3)-エ)】

また、(6)として本題材を通して成果と課題を述べ、「学びを深めようとする思い」について、(7)の項を立てて本題材後における「学びを深めようとする思い」とその現れについて、記録としてまとめておきたい。

① 学習内容を把握し、題材へのかかわりを広げる活動における考察

— 題材の流れ —

1 学習内容を把握する

○題材名・基本となる虫から発想した
自分のイメージを話し合い

自分の思いをもつ

【新種発見 _____ 虫あらわる!】

・基本の虫の形を見て

「ペットボトルで虫をつくるんだ」

「針金を使っているぞ」

「やわらかい針金だ グニャグニャだ」

「アルミ線って言うんだね」

「吸盤でどこにでもひっつくぞ」

「おもしろそうだなあ」

・“新種発見”という言葉から

「どこにもいない虫だ」

「想像の虫かな」

「『世界に』『宇宙に』1匹しかいない!」

「過去にも未来にも1匹しかいない!」

「変わった虫だ」

「つまり自分流の虫づくりだ!」

「あいたところには何が入るのかな」

・光の国からやってきた〇〇を書き加えて

「色が変わる虫だ!」

「反射する虫かな」「ピカピカの虫だ!」

・例示作品(透き通る虫 透き通らない虫)を見て



写真1 光を当てて提示作品を比較する

「透き通っているぞ」

「中にナイロンテープが入っている」

「あっちは透き通らない」

「ポスターカラーマーカーで色をつけてある」

「ビニルテープがはられているぞ」

「なんか透き通らない虫は 光の国からじゃないみたいだ」

「目や羽 口もないとダメだね」

○大切にしたいことを話し合い

製作の見直しをもつ

・大切にしたいことを話し合う

「道具を正しく使うことが大事だ」

「材料を大切にしないと」

「丈夫につくらないといけないぞ」

「立体になるんだ」つまり

「材料選び」「接合接着」「どこから見ても」

がポイントだ!

みんなのめあては

光にこだわって

自分流の虫をつくらう

だ!

ア 既存の価値観をもとに造形に働きかけ

自分の思いや意図をもつ場で

ウ 自分の価値観と他の様々な価値観を関連づけて

自分なりに新しい価値観を広げる場で

○これまでの経験をもとに 題材名や基本となる形から発想した自分のイメージをもつことができている

○つくることを想起し「透き通る」「反射する」を視点に材料の特徴を生かすこと どこから見ても美しいことに気をつけてつくる意識をもつことができる

○ペットボトルやアルミ線の形成を形よく丈夫に行っている

この活動は、学習計画では、1・2時に当たる部分である(学習計画A)。

本題材は、これまでの立体の学習をもとに、新しく「透き通る」「反射する」という光の美しさを追求しながら表していくことができることを目標の大きなものとして掲げた。それは、これまでの子どもの造形的な価値観に新しく「光」というものを意識させたいと考えたからである。

そこで、自分ならではのイメージをもつことができるように、また、大切にしたいことをそれぞれが意識することができるように、題材名・基本となる虫をもとに大切にしたいことを話し合い、製作の見直しをもつ場を設定した。

そこで、まず、“新種発見 _____ 虫あらわる!”と板書し、基本となる虫を見せた。子どもは、「ペットボトルを使って虫をつくるんだ」「針金も使っているぞ」「吸盤でひっついているぞ」と基本となる形づくりのためのポイントを自分たちで見つけることができた。また、“新種発見”という言葉からも、「どこにもない」「想像の」「世界に一匹」「かわった」という発言を得ることができた。それらの話し合いを通して、これまでも大切にしてきた「自分流に工夫してつくる」という発言も得ることができた。子どもは、これらの話し合いからそれぞれに「ペットボトルとアルミ線、吸盤を用い、自分流の虫をつくること」への思いを高めていたのではないかと考える。

その後、“新種発見 _____ 虫あらわる!”の空欄部分に“光の国から”を書き加え、話し合いを進めた。この“光の国から”の言葉からは「色が変わる」「反射する」「ピカピカ」という3つの言葉を引き出すことができたが、それではまだ不十分であると感じたので、光を通さない材料を使ってつくった虫と光を通す材料を使ってつくった虫を提示した(写真1・2)。それらに投光器

で光を当てながら、比較することを通して「透き通る」という言葉を引き出すことができた。また、提示した虫が製作途中を思わせるものであったので、「目」「羽」「口」など、さらによりよくするために様々な部分を付けなければならない、という思いも引き出

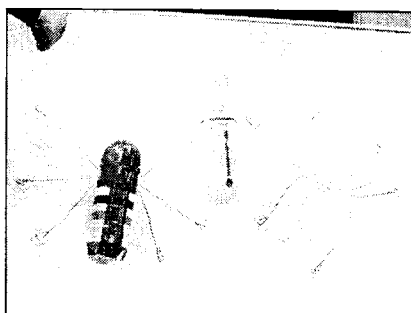


写真2 透き通る虫と透き通らない虫の比較

— 題材の流れ —

2 製作するI

○基本の形をつくる

「熱でペットボトルに穴があくんだ」
 「どんな虫にしようかな？」
 「この材料は反射するかな」
 「どう思う？」
 「いろいろ試してみよう」



写真3 材料の特徴を確かめる子ども

この表からは、つくることを想起し、大切にしたいことの意識を見ることができる(以後表中の●:「材料選び」関すること、▲:「接着接着」に関すること、■:「どこから見ても」に関すること、と教師が見取ったもの)。また、「こんな材料を考えている」の項目には、表3のような様相が現れている。ここで、つくることを想起し、大切にしたいことの中で「材料選び」にかかわる記述となる。このことを意識したと判断できる記述は○で示すことにする。

表1、2では、大切にしたいこととして16人の子どもが「材料選び」へと向いていることが分かる。また、「接着接着」は、3人、「どこから見ても」は、2人となっている。表3では、記述なしの子どもを除く31人のうち、30人が「透過する」「反射する」を意識した材料を考えていることを示している。これらの表を重ね合わせて見ると29児を除く子どもが虫づくりに対し、「透過する」「反射する」ことを大切にしようとする思いをもつことができるといえるだろう。このことは、子どもの日記からも読み取ることができる(資料1)。子どものアイデアスケッチ(資料2)、また、授業後に行った「こんな材料を集めている」というアンケート(表4)からも「材料選び」にこだわる子どもの様相を見ることができる。

「こんな材料考えてる」

光を通す・反射することを意識していると教師が判断したもの○をつけた

1	透過するビー玉やガラス ○	18	針金 折り紙(キラキラ) モール ビー玉 ビーズ ○
2	アルミホイル ビー玉 スポンコール ビニールテープ ○	19	キラキラした折り紙 スポンコール ○
3	アルミ マジック 反射する紙 アルミ線 ○	20	アルミホイル キラキラ折り紙 セロハン ビーズ ○
4	透過する石 ビー玉 ○	21	スポンコール ビーズ ビー玉 おはじき セロハン アルミホイル ○
5	タワシ(スチール) キラキラ折り紙 アルミホイル… ○	22	みどりのペットボトル ○
6	ガラスコレクション そのかけら 蛍光ペン ナイロンビモ 発泡スチロール ○	23	スーパーボール キラキラ折り紙 油性ペン ○
7	アルミホイル テープ 光る折り紙 ○	24	記述なし
8	プチプチマット 画用紙 キャップ 爪楊枝 ビー玉 ○	25	モール セロハン ビーズ プラ板 スポンコール カラーシート ○
9	プラ板 油性ペン ビーズ ○	26	セロハン プチプチマット リボン 色紙 スポンコール ビーズ ○
10	ビー玉 おはじき 綿(?) ○	27	紙 セロハン カラーシート プラ板 ○
11	木 モール ○	28	綿 ビー玉 プラ板 カラーシート セロハン ○
12	ビー玉 キラキラ光るもの ○	29	折り紙
13	セロハン 石 ○	30	とにかくキラキラしていて使いやすい材料 ○
14	水 アルミホイル ○	31	セロハン キラキラ折り紙 キラキラリボン ○
15	記述なし	32	アルミホイル ビー玉 キラキラ折り紙 セロハン ○
16	スポンコール おはじき ビー玉 ○	33	アルミホイル セロハン ○
17	CD 透明折り紙 リボン(?) アルミカップ ○	表3 こんな材料を考えている【No.1学習カードより】	

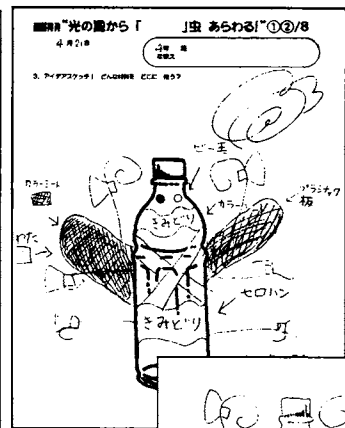
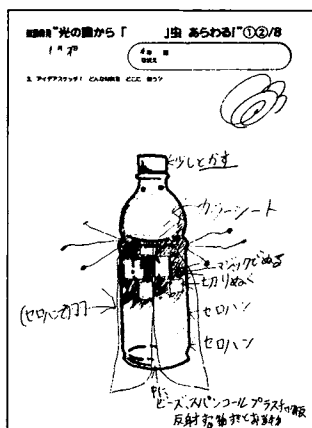
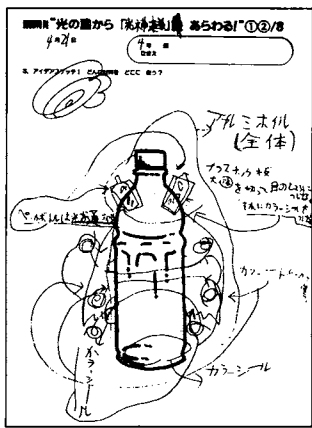
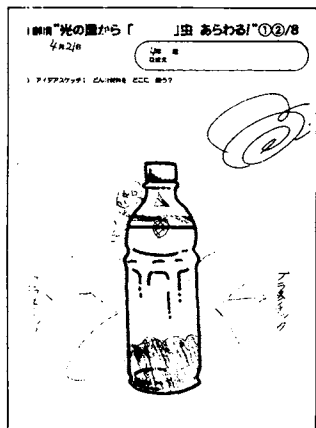
〈宇宙で1つの虫〉
 今日、3、4げんの図工でうちゅうで1つの虫をつくりはじめました。さいりょうは、ペットボトルにはりがねみたいのにきゅうばんなどのものと宝箱の中身です。はんしゃするもの、すきとおるものをたくさんつかえば、光の国からやってきたふうに見えます。わたしはチョウにします。(24児)

〈なんだこれ?〉
 3、4時間目の図工でペットボトルで虫をつくりました。今日は、はりがねときゅうばんを使ってきほんの形をつくりました。せつけい図はもう頭の中にかんで見えています。ビニールテープなどのすきとおったりはんしゃしたりするものをあつめるのをしっかりやりたいです。材料選びも大事だからくささないように何にかもってきたいです。先生が見つけたのはやっぱりすきとおってきれいですこいなあと思いました。(21児)

〈虫って?〉
 今日、図工でペットボトルで虫をつくりました。まず、き本となる形をつくりました。それをつくるだけでもとても大変でした。その後、その虫のせつけい図みたいなものをかきました。そうすることで次に必要な材料や道具がわかりました。ほくは、ビー玉やおはじきは光をすき通っていいと分かったようにもなりました。少しすつ虫を完成させたいです。(10児)

〈光の国からきた虫 きらきら虫〉
 今日の図工は「光の国からきた虫」という題名です。ほくの虫の名前は、スペースきらきら虫という名前です。ほくのめあてはかこにもみ来にもそんないい自分の虫です。ほくはおもしろく自分流の虫をつくるためにほくがもってきたペットボトルにしました。自分たちできめためあてを守りたいと思ったからです。(略)もっともっと色んな工夫をしていい作品をつくりたいな。(12児)

資料1 子どもの日記から見える「材料選び」の意識

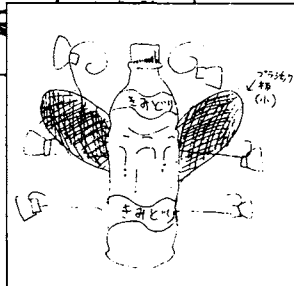


↑5児 ●

↑14児 ●

↑29児 ●

↑28児 ●



29児も含めて 33人全員が 透き通る・反射する「材料選び」を大切にしようとする思いをもっていることが アイデアスケッチからも見て取れる。28児は 学習カードの裏も使い 裏面から見た虫をイメージしている。このことは「どこから見ても」を意識していると考えることができる。そうした子どもは33人中1人であった。

資料2 子どものアイデアスケッチ

「こんな材料を集めている」			
1	小さなびん プラスチックのかざり アルミホイル カラーテープ 石 (透明プラスチック製)	18	セロハン
2	記述なし	19	プチプチマット カラーホイル アルミホイル 色つき針金 透明ストロー
3	薄い紙 アルミホイル	20	透明セロハン リボン
4	セロハン セロハン折り紙 きらきら折り紙 ビーズ	21	卵パック 透明な糸 色つきペットボトル 金ボタン リボン 金色針金 アルミカップ 紙袋 万華鏡の筒 スーパーボール
5	おはじき プチプチマット 卵パック ビーズ はとめ玉	22	弁当の蓋 スプーン アルミホイル
6	パン ラップ クッキングホイル	23	ビーズ プラスチック製貝殻 ビー玉 おはじき アルミホイル 鏡紙 シール
7	記述なし	24	クリップ マグネット 押しピン つつみかみ ビーズ プチプチマット キラキラ折り紙 ビニタイ
8	ビーズ (透明) ふくろ セロハン 紙 アルミホイル	25	ビー玉 おはじき ビニタイ キラキラ折り紙
9	アイロンビーズ 蛍光折り紙	26	カラーホイル スピncカラー パールカラー オーロラ折り紙 プリズム
10	アルミホイル	27	オーロラ折り紙
11	ビニール 金色の紙 (木に巻く) 銀色の紙 (木に巻く) 鏡	28	ラップ 下敷き アイスカップ アルミホイル プラスチック
12	おはじき スパンコール ビーズ	29	ペットボトル アルミホイル ラップ ビニールの包み紙
13	ホログラム包装紙 透明折り紙 ホイルカラー折り紙 金銀ペンモール	30	プチプチマット ペットボトル クリスタル 梱包シート ストロー 透明折り紙 金タワシ 台所テープ モール クリップ
14	ペットボトル ビー玉	31	キラキラテープ ナイロンテープ
15	ナイロン キラキラビニールテープ オーロラ折り紙 キラキラ折り紙 ラメパウダー	32	ガラス 水 おはじき レンズ ガラス 白い紙 アルミホイル
16	ペットボトル 金タワシ	33	ラップ 色つきアルミホイル
17	記述なし		

表4 こんな材料を集めている (授業後のアンケートより)

この時点では33人の全員が、「材料選び」にこだわり、表したい自分の虫のイメージをもつことができた
と考える。

これらのことから、題材名をもとに話し合いを進めたこと、透き通る例示作品と透き通らない例示作品を
比較させたことで、つくることを想起した大切にしたいことの1つである「材料選び」を強く意識させるこ
とができたといえよう。また、子どもの願いに合わせ、材料が光を通したり、反射したりすることを試す場
を設けたことも、互いの材料を見合ったり、光を通す、反射するという視点をもってかかわり合ったりする
ことを促し、光にこだわった「材料選び」への思いを高めることができた要因と考えられる。

子どもにとって「光」を扱うのは、本題材が初めてとなる。これまでの生活経験でもあまり意識しなかつ
た「光による美しさ」に対し、それぞれ違いはあるにせよ、子どもの中に「光を生かす」という思いを育む
ことができたのではないかと考える。また子どもなら誰でも知っている「虫」という基本の形を提示したこ
とも「光を生かす」という思いへ焦点化させることになったのではないだろうか。

一方、その他の大切にしたいことである「接合接着」「どこから見ても」に関しては、この段階ではあまり
意識されていない。これまでの製作経験が少ないこと、また、実際に製作するという過程を経していないこと
が、その原因の1つであると考えられる。つまり、実際に自分でつくるといふ見通しをもつことができなかつ
たことの現れととらえることができる。加えて、学習計画の中では、子どもの思いに合わせ、全体の場で、
基本の虫を光の国の虫につくりかえながら、それを例として取り上げ、大切にしたいこと3つの意識を高め
たいと考えていた。実際の授業の場面では、必要感を見出すことができなかつたのでこの活動は行わなかつ
た。しかし、子どもの意識がどうであるかをしっかりと見取ることができていれば、「接合接着」「どこから
見ても」への意識を高め、つくることへの見通しをもち、取り組むことができたかもしれない。

そして、28児のアイデアスケッチ(資料2)に見られる「どこから見ても」を大切にしたいという思いを
全体の場に広げたのは次時になってからである。教師がその場で28児の思いのよさを見取り、全体へと広げ
ていくことが適切にできていれば、子どもの意識をさらに高めることへつながったように考える。同じよう
に、「接合接着」に関しても11児・28児の記述(表1)に現れている思いを全体に広げることができれば、
大切にしたい3点を意識しながら、製作へと進んでいくことができたのではないだろうか。

② 材料の特徴を生かし、試したり、確かめたりし、互いのよさを生かしながら表現する活動

一 題材の流れ 一

2 製作するⅡ(3・4時)

○材料の特徴を生かし

試し確かめながらつくる

・みんなでがんばるめあてを確認する

「光にこだわって自分流の虫をつくらう」
かめあてだった

「材料選び」「接合接着」「どこから見ても」
がポイントだったぞ

「材料選び」では

“透き通る”“反射する”材料だった

「接合接着」では丈夫に

きれいにしなければならぬ



写真4 大切にしたいことを話し合う場

・自分のめあてをつくる

「私は“自分流に丈夫に”かめあてだ

「反射するものを使って”でいこう

「どこから見ても」にこだわろうぞ

「自分流」を大事にしよう

イ 自分の表したいことに合わせて

感じ 考え 自分らしい表現をする場で

ウ 自分の価値観と他の様々な価値観を関連づけて

自分なりに新しい価値観を広げる場で

○様々な角度から全体の光による美しさ・色や形を確かめなが
ら表している

○材料の組み合わせを考えて 部分や全体の美しさを表してい
る

○材料を選び 材料に合った切断や接合接着ができてい
る

○他とかかわり合いながら「光による美しさ」「色や形」という
視点で比較し 他とは違う自分だけの虫を表現している

この活動は、学習計画の3～7時に当たる部分(学習計画B)
である。

基本の虫の形を大切にしたい3つのキーワード(「材料選び」「接
合接着」「どこから見ても」)を意識しながら、自分のつくりたい
虫へ向けて変容させていく学習になる。毎回の学習の初めに、全
員ががんばるめあて「光にこだわって自分流の虫をつくらう」を
確認した。そして、そうした虫をつくるためのキーワードとして
「材料選び」「接合接着」「どこから見ても」を意識することがで
きるように話し合う場を設けた。さらに、学習カード(③で後述
する)にもその記述欄を設け、常にそれらのことが意識できるよ
うにした(写真4)。また、製作初めの自分の作品と友達作品を

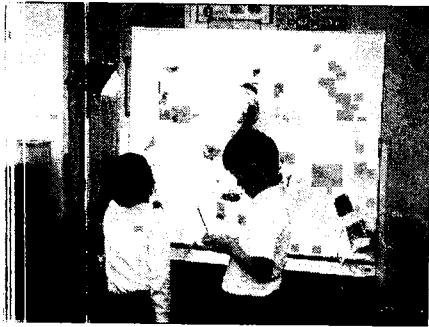


写真5 相互鑑賞 よりよい表現に向けて

比べる（3時の段階では基本の形であるため省略）相互鑑賞の場を毎時間設定した。それは、友達の取り組みから自分にはないよさに気づき、よりよい表現に向けて、自分のめあてをしっかりとって取り組むことができるようにねらったものである（写真5）。また、前回までの作品の写真と毎時間後の作品の変容を一人一人が確認できる



写真6 投光器付ホワイトボードとクリアボード

ように学習カードに製作途中の作品をはり、時系列で作品の変容を見ることができるようにした（③で後述する）。そして、「材料選び」「どこから見ても」をそれぞれが確認し、互いの表現を見合う場として投光器付ホワイトボードや投光器付クリアボード（どこから見てもマシーン）を設置した（写真6）。

3・4時では、基本の形からのスタートである。「透き通る」「反射する」にこだわった「材料選び」から、実際に「接合接着」「どこから見ても」を大切にしながらつくっていくことになる。表5は、その時の子どもが立てためあての一覧である。表2にある前時での子どもの大切にしたいことが、実際につくることを意識し始めたことで「接合接着」「どこから見ても」へも意識が広がっていることがうかがえる（表6）。「材料選び」に関しては、16人から15人と約半数の子どもが前時から引き続き、大切にしたいこととしてめあてを立てている。「接着接合」に関しては、3人から15人、「どこ

No.	〈自分の今日のめあて〉記号は教師による見取り	No.	〈自分の今日のめあて〉記号は教師による見取り
1	ヒカヒカでとくにどこから見てもこだわる●■	18	キラキラになるようにする●
2	透き通って反射するように!●	19	どこから見てもピッチーらしく■
3	よごさないようにきれいにカッコイイ虫を▲	20	どこから見てもきれいに透き通って反射する●■
4	羽を鳥の形みたいにしたい	21	丈夫にきれいにつくることを▲
5	丈夫できれいなカッコイイ虫を▲	22	どこから見てもきれいで反射して透き通る●■
6	どこから見ても反射し透き通る●■	23	「丈夫」にこだわる▲
7	どこから見てもきれいで工夫してある■	24	反射するものを使って●
8	どこから見ても透き通ったり反射したりする虫●■	25	じょうぶにきれいに▲
9	形と丈夫さにこだわりたい▲	26	材料を上手に生かしてきれいな虫を●
10	接合接着で「光」をわすれない!●▲	27	丈夫にきれいに!▲
11	反射するところ●	28	自分流に羽や光をこだわる!●
12	自分流きれいに▲	29	たくさんの材料をムダにしないで使う
13	透き通って丈夫でキラキラしている虫●▲	30	今日は自分流にこだわる
14	自分流で丈夫につくる▲	31	丈夫で反射してきれいにこだわる●▲
15	羽に折り紙をきれいにつける▲	32	じょうぶにきれいに▲
16	自分流できれいに作る▲	33	どこから見てもきれいに反射するように●■
17	ほかにはないような		

表5 3・4時の各自のめあてとふりかえり【No.2学習カードより】

つくることを想起し大切にしたいことを意識できたと考えられる児童（人）	「材料選び」にかかわること（●）	●●●●● ●●●●● ●●●●● (15)
	「接合接着」にかかわること（▲）	▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ (15)
	「どこから見ても」にかかわること（■）	■●●●● ■●●● (8)

表6 つくることを想起し大切にしたいことを意識できたと考えられる児童【3・4時のめあてより】（人数）

また、「接着接着」に関しては「穴をあけてビー玉をはめ込むビー玉の接着の方法 (23 児 写真9)。「羽を接着剤ではなく穴をあけてモールで接合する方法 (11 児 写真10)。」という自分が困っていたことや考えもつかなかったことを見つけている。そして、「色セロハンの使い分け」が「どこから見ても」にかかわって述べられている。話し合いの場面ではこれだけの発言であったが、授業後の子どもの学習カードでの「友達の作品や取り組みのよいところを見つけることができましたか。それはどんなことですか。くわしく書きましよう。」(表7)にはそれぞれが感じたよさが記述されている。

友達の作品や取り組みのよいところを見つけることができましたか ◎:たくさん見つけた ○:少しは見つけた △:見つけられなかった それはどんなことですか くわしく書きましよう			
1	○ 中にセロハンを入れていること●	18	○ ペットボトルの表面にキラキラの折り紙をはっている人がいたから自分もやってみよう●
2	◎ まわりのにぎやかなカラーテープがはれてました■	19	◎ どこから見ても…を時々忘れてしまうことがあって正面からしか考えてなかったけど あとで忘れずにできた■
3	○ 10さんのカプセルの中にビー玉を入れてくっつけていた▲	20	○ 16さんのがホワイトボードにきれいに映っていてすごいなあとと思います
4	◎ 10さんのは中にビー玉を入れるだけではなくてはり付けているからすごいと思いました●	21	◎ ペットボトルの形を利用して材料を付けたり 中にたくさん詰めたりしていました●
5	○ ペットボトルに穴をあけて ヘアピンをつけた▲	22	◎ つける時 指でぎゅーとおしていること 材料を透けたり 反射したりするが実験していたこと▲
6	○ 中にものをいれて その中に光るものをいれる●	23	○ 目 羽の接着が難しかったです 基本は「穴をあけて 差し込む 入れる」です
7	◎ 中にセロハンを入れるとか 接着剤を使わずにくっつけるなど▲	24	○ 目をビー玉にして穴をあけてから付けていた▲
8	○ 接着接着でペットボトルに(細い長め)の穴をあけて羽を入れている▲	25	○ 19さんのセロハンと何かをペットボトルにいれていたのがきれいだった●
9	○ ペットボトルの底のところにビー玉をいれたり 透き通る(反射する)ように工夫していた●	26	○ 31さんが反射するように外側や内側に色セロハンをはったり 入れたりしてきれいだなと思った●
10	○ 9さんのペットボトルの中にビーズをたくさん入れていたのがとてもよかった●	27	○ みんなどこから見ても 接着接着 材料選びをがんばってやっていた
11	◎ ペットボトルの中にセロハンをいれたらよくなると分かりました●	28	△ 23さんの目の付け方がすごいなと思いました 22さんのペットボトルにオレンジと黄色のカラーシートと出組み合わせがすてきでした●▲
12	○ 材料選びは反射したり透き通ったりするものをもってきたので自分ではできたと考えた	29	○ ペットボトルの中身をたくさん材料を入れていて たくさん飾りつけもしていました
13	○ 11さんの木の枝 18さんのビー玉●	30	△ 自分はいろんな模様や材料を考えていました。とっても忙しかったけどおもしろかったです
14	○ 1さんのペットボトルの上に大きいペットボトルの上の方をつけるのがすごい●	31	◎ 25さんの虫でセロハンをペットボトルにくしゃくしゃにして入れていて反射してきれいだった 自分も取り入れてみた●
15	○ テープをそのままはることに●	32	○ 色んな道具を使うときれいに見えて反射していた
16	○ 組み合わせ 反射する 透き通る●	33	○ ポスターカラーマーカーでかいて工夫していた●
17	○ 5さんのはとめをくっつけるなんてすごいと思った●		

表7 3・4時の相互鑑賞から【No.2学習カードより】
網掛けは 自分のことについて述べていると判断したもの

どんなよいところを見つけたか (人)	「材料選び」にかかわること (●)	「接着接着」にかかわること (▲)	「どこから見ても」にかかわること (■)	よいところの記述なし
	●●●●● ●●●●● ●●●●● ●●● (18)	▲▲▲▲▲ ▲▲ (7)	■ ■ (2)	(3)

表8 どんなよいところを見つけたか【3・4時のふりかえりより】(人数)

話し合いを終え、話し合いをもとに再度製作した後の授業を終えてのふりかえりである。相互鑑賞での気づきを書くことができなかった3人を除く30名のうち、「材料選び」に関するものに18人、「接着接着」に関するものに7人、「どこから見ても」に関するものに2人が友達の作品にあるよさの気づきとして記述している(網掛けのよいところの記述なしの3人は、学習カードにおける項目の読み違えと考える)。

表7と学習を終えての気づきの記述(表9)や自己評価を重ね合わせてみる(表11)。例えば、2児のようにめあての段階では「●材料選び」を大切にしたいと取り組み始めたが相互鑑賞によって、「■どこから見ても」について考えるようになり、授業後の気づきや最終的な自己評価の場面では、その両方を観点として

今日の学習を終えて 3つの大切にしたいことをポイントに気づいたことをくわしく書きましょう。			
1	どこから見ても材料もそうだしどこから見てもきれいってのが目標で 自分はそれを一番大切にします●■	18	材料選びがちゃんとできました●
2	材料選びとどこから見てもきれいな作品ができたけれど接合接着ができなかったからこんどはがんばります●■	19	羽の付け方で接着剤を使わずとも丈夫(11さんの方法)▲前からでも後ろからでも横からでも“ピッチー”■
3	材料をしっかりと選ばないといひ虫にならない 今度は接合接着・どこから見てもやる●▲■	20	セロハンは透き通るとみんなも私も思っていたけど19さんがセロハンは反射すると言っていたのでビックリした●
4	丁寧に丈夫にする▲ みんな羽をつけていてすごいなと気づいた	21	カッターで切り込みを入れると丈夫で接着剤を使わなくていいからいいやり方だと思った▲
5	記述なし	22	透けるためにははっきりするとところにも関係がある●■
6	中には反射や透き通るのを入れること●	23	より使いやすい材料を選ぶ・透き通り反射するように● 時間をかけてでも丁寧に▲
7	全部同じで材料によって変わることです●▲■	24	友だちのいいところをたくさん見つけるとにかく反射を大切に!!!!●
8	接合接着はできるように工夫すればできる▲	25	いっぱい材料をもってくると選べていいと思う●
9	どこからみてもは難しいんだなぁと思いました■	26	友だちのセロハンをはっているのを見て 透き通るように私もはって見た●
10	接合接着はじゅうぶんにてき材料選びはまあまあ どこから見てもをやりたいです●▲■	27	材料選びが少しできなかった●
11	接合接着は難しそうに見えたけど工夫すれば簡単でした■	28	材料選びをしっかりと接合接着を考えていきたい●■
12	接合接着はちゃんとできなかったけれど他の2つはできた●▲■	29	思いついたことやつかなかったことなどたくさんありました
13	鶴を中に入れたのだけれど接着剤を使ったら少し汚い…▲	30	材料選びはそのペットボトルに対しての模様というのが分かりました
14	最初に羽を付けるのを横に切り込みを入れて落ちたので ちゃんと接合接着すればよかったと思う▲	31	どこから見てものところができているよ!でも 接合接着がためでした▲■
15	記述なし	32	反射・透き通るを大切にどこから見てもきれいに見えるようにすると本当に世界に1匹だけの虫がつかれること●■
16	いっぱい道具をいっぱい使いきれいになった	33	道具をたくさん使ったらきれいになった
17	中にいろいろな部品を入れた●	表9 3・4時の各自の気づき【No.2学習カードより】	

観点別の各自の気づき(人)	「材料選び」にかかわること(●)	●●●●● ●●●●● ●●●●● (15)
	「接合接着」にかかわること(▲)	▲▲▲▲▲ ▲▲▲▲▲ ▲▲ (12)
	「どこから見ても」にかかわること(■)	■●●●●■ ■●●●●■ ■●●■ (13)

表10 観点別の各自の気づき【3・4時のふりかえりより】(人数)

No.	めあて時	相互鑑賞	気づき	自己評価	No.	めあて時	相互鑑賞	気づき	自己評価
1	●■	●	●■	○	18	●	●	●	○□
2	●	■	●■	○□	19	■	■	▲■	□
3	▲	▲	●▲■	△	20	●■		●	○△
4		●	▲	○□	21	▲	●	▲	○
5	▲	▲		○△	22	●■	▲	●■	○△□
6	●■	●	●	△□	23	▲		●▲	△
7	■	▲	●▲■	○□	24	●	▲	●	△□
8	●■	▲	▲	○	25	▲	●	●	○□
9	▲	●	■	○△□	26	●	●	●	○△
10	●▲	●	●▲■	△	27	▲	●▲■	●	△□
11	●	●	●▲■	○△□	28	●	●▲	●■	△
12	▲		●▲■	○□	29		●		△
13	●▲	●	▲	○△□	30				△
14	▲	●	▲	○	31	●▲	●	▲■	○□
15	▲	●		○△	32	▲		●■	□
16	▲	●		○□	33	●■	●		□
17		●	●	○□					

表11 観点の広がり【3・4時】

・表11・12の表中における「自己評価」は「○:材料選び」「△:接合接着」「□:どこから見ても」について「大事にして取り組むことができた」と回答したものを表記した
 ・表中の空欄は大切にしたい3点以外の記述 ・網掛けは 観点を広げたと教師が判断したもの

自分の取り組みをふり返っている。そうした自分の作品を見つめ直す観点を広げている子ども(表11中の網掛け)は、27人である。同じように5・6時における観点の広がりについてまとめたものが表12である。5・6時では、製作の時間を多く設定したいと考えたので、前時でのふりかえりや前時での写真をもとに自分の作品を見直しめあてを立て、製作に入った。相互鑑賞の時間に、そこでの気づきを記述することはしなかったが、子どもからはじっくりと自分の作品を見つめ、他の作品と比べてめあてを立てている様子が見

No.	見直し	めあて時	気づき	自己評価	No.	見直し	めあて時	気づき	自己評価
1	●	■	■	○	18	●	●	●	△
2	●	■	■	○	19	なし	●		□
3	なし	■	■	○□	20	なし	▲	▲■	△□
4	▲		●▲	○□	21	なし	▲	■	○△
5	なし	■	▲	○△□	22	●	●	●■	○△□
6	なし	■	●	○□	23	●	●	●▲■	○△
7	なし	●	■	○△□	24	■	■	▲■	△□
8	なし	■	■	□	25	▲			△
9	●	■	■	○□	26	●▲	●▲	■	○□
10	なし	■	■	△□	27	なし	▲	●	○△□
11	なし	■	■	○△□	28	なし	■	▲	△□
12	なし	■	■	○△□	29	●■			△
13			■	○△□	30	なし	■	■	□
14	なし	▲	■	○△□	31	■	■	■	○□
15	なし	■	■	□	32	●■	▲	■	○△□
16	▲	▲■	■	○△□	33	なし	■	■	△
17	▲■	▲		□					

表12 観点の広がり【5・6時】



写真11 相互鑑賞から自分の作品を見直し
めあてを立てる

— 題材の流れ —

2 製作するⅢ (5・6時)

○作品を見直し めあてを立てる

・相互鑑賞から

- 「きれいな光が溢れているぞ！」
- 「いろいろな表し方があるな」
- 「もっと光るようにしないと
材料をいっぱい使いたい！」
- 「きれいな接着をしなくちゃ」
- 「どこから見てもかわいい友達がいる」
- 「裏側がさみしい どこから見てもを！」

・めあてを立てる

- 「どこから見ても大切に」
- 「反射よりも透き通るにこだわる」
- 「きれいに丈夫に」
- 「さあ がんばろう！」

○課題を見直し 製作する

- 「なかなか上手く透き通らないぞ」
- 「はんだごてで穴をあけて
ピースをつめよう」
- 「材料に穴をあけて…」
- 「セロハンを丸めて入れれば中で広がるな」

○相互鑑賞し

- 互いのよさを見つけて
製作に生かす (7時)
- ・相互鑑賞をもとにめあてを見直す
複写メモを用いて
- 「カラーシートの上に
カラーシートをはっていいいな」
- 「光を通した時に
かげに色が映ってきれいです」
- ・めあてを立て 製作する
- 「今日はどこから見ても
透き通るを完璧にするぞ！」
- 「光のかげ！にこだわってつくろう！」
- 「友達はうまくいっているかな」
- 「まだまだ光が上手く通らない
どうしたらいいですか」
- 「これでどうかな 試してみよう！」

で取れる (写真11)。

表11と同じように見ていくと23人が自分の取り組みをふり返る観点を広げている。

このことは、相互鑑賞やその気づきの話し合いの場を設定したことが、他の価値観から影響を受け、自分の作品と重ね合わせることで、自分の作品を見つめ直す観点を広げたと考えることができる。つまり、自分なりの新しい価値観で作品を見つめ直すことができたといえよう。

以下に示す資料3は、3～6時における子どもの日記の抜粋である。

(略) 中には、おはじきをいれてビー玉トン!といいました。16さんのが少しすこかったのでゲットしてみました。ちょっとにぎやか?
みんなのがとつてもかかやみいてきれいにしてあげていました。(わああああ!すこ〜びっかびっかにひかっている!) さみしかった虫がとつてもにぎやかになりました。(32児) 3・4時の学習を終えて

(略) はじめの羽つきから、すこピカピカになりました。(略) それから、だれかのアイデアをかりて、へらくレスオオカブトみたいに角をつけてかっこよくなりました。まだ、プラスチックでさいこの方につくたのでまだ何もつけてなくてそんなにピカピカじゃないけど、それでもかっこいいです。(8児) 5・6時の学習を終えて

資料3 子どもの日記の抜粋【3～6

(略) それに、ほかの人がセロハンを詰めているのを見て、自分も小さくして入れてみるときれいになったので、ほかの人のおかげでもあります。もっとよくなるようにいろいろ工夫をして丈夫にきれいにしあがるようにしたいです。(21児)
5・6時の学習を終えて

図工で、セロハンを小さく切ったものを入れただけだったので、「何かさびしいなあ〜」と思っていたら、みんなセロハンを上手く詰める方法を言っていたのを思い出して、青・緑・黄・赤のセロハンを入れました。そうしたら「反しやるかな…?」と思ったけど、きれいに反しやしたのでよかったし、うれしかったです。(22児)
5・6時の学習を終えて

(略) みんなの虫をみるとまえよりもすこくわかっていました。ほくもせいっぱいがんばってきれいな虫をつくりたいです。つくると中、みんなはんしゃ、すきとおるものをいっぱいつけてきれいでした。(16児) 5・6時の学習を終えて

ここには、自分の作品を見つめ、相互鑑賞したり、他とかかわったりすることを通して互いの変容やよさを認め、自らの製作に

生かす様子が表れている。そして、それらの活動を通して変容した自分を見つめ、自らの取り組みに満足している心情が綴られている。

7時では、全員の作品をこれまでのようにホワイトボードやクリアボード、窓に取りつけ、複写メモを用いての相互鑑賞から学習を進めた。学年の初めでもあるので、グループ内の仲間3人と「これは」と思った作品1点について相互鑑賞することを伝えた。グループ以外の作品に対する相互鑑賞でのメモを以下の表13に示す。

7時における相互鑑賞での複写メモの記述（相手No） 空欄はグループ以外の友達に対するコメントがないもの			
1	アルミホイルが輝いています 接着剤ですよりテープでとめたらいいと思います 全体から見て顔がたいでおもしろいです (2)	18	羽のところにたくさんセロハンがついているところがいいです (2)
2	1さんはつばさをはるところの位置がよかったよ つばさもかっこうよかったよ (1)	19	欠席
3	5さんの羽のつけ方が接合接着でしたね あと羽の色も羽にくっつけてあるシートもあってきれいです (5)	20	羽がキラキラでとてもきれいです 反射しています とってもかわいいね! (25)
4	金色の糸みたいのがあって大きな羽があるからすてきな作品です (5)	21	セロハンが羽にはってあったりキラキラ折り紙がはってあって色合いがとてもよくてきれいですね 中にセロハンが入っているから透き通っていてとてもきれいですね (27)
5	セロハンを入れすぎて色がきたなくなっちゃってるよ! 気をつけたいね (7)	22	羽の色がキラキラ光っていていいね (きれい!) (15)
6	本物の木をつかっているからすごい! (それを角にしているから) (11)	23	セロハンの使い方がいい! 光を通すととてもキレイになるだろうね もっと派手にしちゃってもOK (22)
7		24	
8	ペットボトルの中にセロハンを入れて光を通すとその色がかげになっていた すごい! (27)	25	カラーシートの上にまたカラーシートをはったりセロハンを入れていてどこから見てもきれいに見えました (32)
9	カプセルの中にビー玉やビーズがあってすごいです (10)	26	
10	羽の形がとてもいいです 「材料選び」と「接合接着」がとてもいいです (5)	27	反射しているところと透き通っているところ両方ともあっていい感じですよ (21)
11	中にいろいろ入っているのがいいですね (7)	28	
12	いろいろな材料を選びそれをよくつかっているのいいと思いました 接合接着ができていて工夫していてよかったです (15)	29	
13		30	
14	羽のプラスチック板に色をぬって飾りをつけるの (5)	31	羽がとてもきれいです 完成が楽しみです (みんな) (15)
15	ペットボトルの中に細かいセロハンが入っているのがきれい (22)	32	羽がハートの形でいいよ 黄・青・赤の色セロハンの組み合わせもうまく工夫されているね あとは外にぬるともっともつよくなるよ (25)
16	口に木の棒がささってありかすと虫みたい (11)	33	
17	単純でいいね (20)	表13 相互鑑賞における複写メモの記述（グループ外の仲間へ）【7時】 表中の網掛けは互いにメモを交換していると判断したもの	

グループの仲間ではない友達へのコメントを一覧にして概観すると、一人一人がよいと考え、選び、コメントしたとは言い難い。3つの大切にしたいことをポイントにしながら自分がよいと感じた作品について書いているというより、メモを交換し合っている様相も見える（表中の網掛けで示す）。その様相は、友達との関係が学びに大きく影響することを示している。これは、まだまだ子どもの中にもともに学ぶ仲間としての意識が根づいておらず、本音で自分の思いを学級の仲間である誰に対しても表出できるまでには至っていないことを意味しているといえる。

グループ内での交換では、そうした友達関係にとらわれない相互鑑賞を全員が行い、3～4のコメントを受け取ることができた。ここで受け取ったメモがどのように子ども一人一人のめあてづくりを支えたかを見ていくことにする。本来ならば全員のめあてについて分析するべきだが、ここでは紙幅の都合上、無作為に6人の子どもを抽出し分析していきたい。

抽出したのは、2児、10児、14児、20児、25児、32児である。受け取ったコメント（アドバイスといった方が適切かもしれない）と3・4時、5・6時のめあて、7時のめあては次の表14の通りである。2児は7時のめあてを「ペットボトルにいろんなものをはりつける」とした。21児からの「ペットボトルに色んなものをつけたらもっとよい」と26児からの「羽にはたくさんの形でちりばめてあってよい」、9児の「おはじきやビー玉をそのままくっつけていたのですごい」というコメントを合わせ、めあてを立てたと考えられる。このようにコメントを受けてめあてを立てたと考えられるのは2児、14児である。逆にコメントでよさとして認められたことをめあてとしたのは、20児、25児、32児である。20児は、とても光っていたというコメントを受け取りながらも「どこから見てもキラキラ」というめあてを立てている。同じように25児、32

No.	受け取ったコメント (渡した子どもNo)	【3・4時】(5・6時)→7時のめあて
2	<ul style="list-style-type: none"> ・アルミホイルが輝いています 接着剤よりテープでとめたらいいと思います 全体から見て顔みたくておもしろいです▲ (1) ・羽が透き通るものや反射するものを使ってあってにぎやかです ペットボトルに色んなものをつけたらもっといいと思います● (21) ・羽の形を工夫してあっていろいろな色セロハンなどがたくさんでちりばめてあったので安定感があると思います (26) ・おはじきやビー玉をそのままくっつけていたのすごいです▲ (9) 	<p>【透き通って反射するように●】 (どこから見ても反射する力とはね返す力をはっきり■) → ペットボトルにいろんなものをはりつける ●■</p>
10	<ul style="list-style-type: none"> ・カプセルの中にビー玉が入っている! すごい 光を付けるとカプセルが光っていますよ 上の方も光がなくても光ってるね すごいは● (31) ・カプセルの中にビー玉やビーズがあってすごいです● (9) ・裏にもビニールみたいなのをはってあるからいいね■ (11) 	<p>【接着接合で「光」を忘れない●▲】 (裏側がさみしかったのでどこから見ても■) → 羽を工夫し接合接着をして虫を完成させる ▲■</p>
14	<ul style="list-style-type: none"> ・羽を1枚なのにくるっとしてある羽がいい (15) ・アルミホイルをつかって光を反射させようとする工夫とてもいいと思いました 羽の付け方も考えてはいるところもいいと思いました●■ (12) ・アルミホイルがはってあって色あざやかなですね でもペンでぬったり中にもっと何かを入れたらいいと思います● (21) ・羽がまるまわってきれいに見えるよ 中も組み合わせがいいけどもう少しにぎやかになるといい● (32) 	<p>【自分流で丈夫につくる▲】 (接合接着をしっかりする▲) → ペットボトルの中にもっと飾りを入れる ●■</p>
20	<ul style="list-style-type: none"> ・中のセロハンが奥までいってすごいです (9) ・月のはり方や星のはり方がよかったです (2) ・星や月の形がはってあってとてもかわいかったです ペットボトルの中にセロハンをくしゃくしゃにしてあってとても光っていました● (31) ・羽の模様が工夫して星や丸がキレイでした 材料を上手に使って上手く反射していましたとてもよかったです● (26) 	<p>【丈夫にキレイにつくることを▲】 (接着剤で汚くならないように気をつけて▲) → どこから見てもキラキラ●■</p>
25	<ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルの中にセロハンがくしゃくしゃに入っているね とてもキレイですよ 羽も光っていますよ きれいです (31) ・羽がキラキラでとてもきれいです 反射しています とってもかわいいい● (20) ・ハート模様の反射する折り紙がかわいくて反射してきれいです 触りたいところが金色でそこも反射しているいいと思います どこから見てもいいです■ (26) ・羽がキラキラしてきれいでいいね● (17) ・羽がいろいろな色に変化してきれいい● (6) ・羽がハートの形でいいよ 黄・青・赤の色セロハンの組み合わせもうまく工夫されているね あとは外にぬるともっともっとなるよ● (32) 	<p>【丈夫にきれいに▲】 (きれいに) → どこから見ても■</p>
32	<ul style="list-style-type: none"> ・カラーシートの上にまたカラーシートをつける● (14) ・おはじきがはってあって本当の虫みたくていいですね セロハンやおはじきが入っていて色が付いてきれいですね● (21) ・ペットボトルにセロハンをつめる工夫ができてよかったと思いました● (12) ・カラーシートの上にまたカラーシートをはったりセロハンを入れていてどこから見てもきれいいに見えました●■ (25) 	<p>【丈夫にきれいに▲】 (反射・透き通ることを大切に 中にセロハンを入れる どこから見ても大切に●■) → どこから見てもきれいな色にする●■</p>

表 14 相互鑑賞と各自の設定しためあて

No.	相互観賞で友達に渡したコメント
20	<ul style="list-style-type: none"> ・材料選びがすごい なるべく透き通るもの(セロハンなど)を使ってあって透き通ってきれいです (26) ・羽が透き通るものや反射するものを使ってあってにぎやかです ペットボトルにもいろんなものをつけたらいいと思います (2) ・中に透き通るビーズが入っていてとてもきれいです (9) ・羽がキラキラでとてもきれいです 反射しています とってもかわいいいね (25)
25	<ul style="list-style-type: none"> ・羽のところにカラーシートが奥に切ってはってあっていろいろな色が光を通した時にかげに色が映ってどこからみてもきれいです (27) ・ペットボトルの中にカラーシートがいろんな色で入っていてどこから見てもきれいです (17) ・羽のところに接着剤ではったあとにカラーシートをはっているので接合接着はできていると思います (6) ・カラーシートの上にまたカラーシートをはったりセロハンを入れていてどこから見てもきれいいに見えました (32)
32	<ul style="list-style-type: none"> ・羽とリボンの組み合わせが上手! ペットボトルの中も透き通っていいね あと一つ外にペンでぬるといいよ (21) ・羽が丸まわってきれいいに見えるよ 中も組み合わせがいいけどもう少しにぎやかにするといい (14) ・足がぐねぐねで工夫してあるよ 羽も縦で切り込みがあるしそこもふうされているよ あと外を楽しくするといいね (12) ・羽がハートの形でいいよ 黄・青・赤の色セロハンの組み合わせもうまく工夫されているね あとは外にぬるともっともっとなるよ (25)

表 15 相互鑑賞で友達に渡したコメント【20児、25児、32児】

児は「どこから見ても」をめあてとしている。この3人の複写メモを見てみると20児は「透き通る」「反射する」にこだわって友達の作品を鑑賞しており、同じように25児、32児は「どこから見ても」に関してこだわって友達の作品を鑑賞している(表15)。

これらのことから、つくり続けるだけではなく、自分の表現や取り組みをふり振り返り見つめる場を設けたり、相互鑑賞する機会を設けたりすることにより、互いのよさを認め、自らの表現に生かそうとする思いが生み出されたことが分かる。そして、その子どもの思いの生まれは、造形に対する価値観を広げているというこ

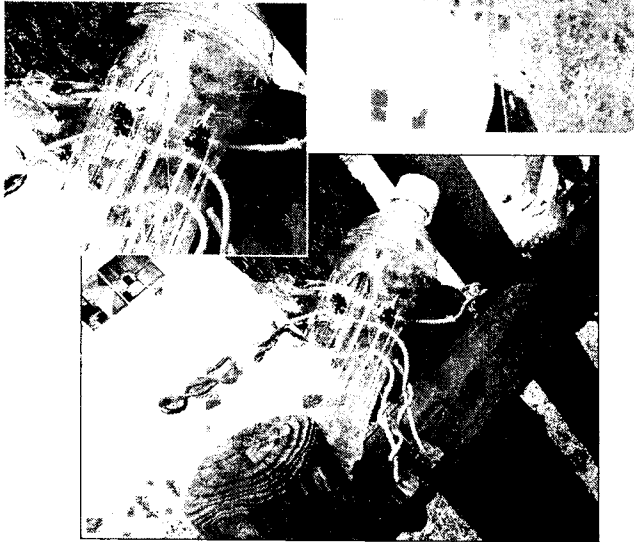


写真12 11児から広がる接合方法
上 10児 下19児

【3・4時の授業記録から見る
「学びを深めようとする思い」のよさのフィードバック】

【子どもの活動・発言】
【教師のフィードバック】
【他の子どもの変容】

- ・(虫に光をあてて教師に見せながら「先生！光が〜ほら！」)
「本当や！きれいやねえ」
【なし】
- ・(ホワイトボードで虫に光を当てながら)
「17さん 前のホワイトボードのところに行ったよ」
【数人が色の移り変わりを確かめに行く】
- ・(材料を光に当て確かめている)
「21さん 材料の段階で虫に当ててみるわ って行ったよ 何を大事にしているか分かる？」
【数人の子が答える「材料選び」だ！】
- ・(11児がペットボトルとプラスチック板をモールで接合している)
「11さんの羽のつけ方 ちょっと見まっし みんなと違うよ
接着剤で困っている人は見に行けばいいかも」
【数人の子が見に行く 「接着剤だ！」 この声に反応して見に行く子も】
- ・(全体の話し合いの場面で「セロハンが反射していた」)
「前はセロハンは透き通って言っていたけど実際に光を通すと反射もしていた」「材料選びに関わる発言だよな」
- ・(全体の話し合いの場面で「ペットボトルに穴をあけてビー玉を付けていた」)
「自分ではできなかったけれど 23さんのを見て発見したんだね 自分でもやってみたいと思った？」
【3人がペットボトルに穴をあけてビー玉を取り付ける】
- ・(全体の話し合いの場面で「11さんが工夫して羽を付けていた」)
「多くの方は接着剤だけれど 11さんは違う方法だったんだね 11さんに聞いてみよう」
【11児の方法で接合する児童が2人】

資料4 教師のフィードバック【3・4時】

とができよう。ただ、この広がった価値観は、自らのめあてに表れるような一人一人のこだわりをすぐに見直す強いものとはならず、今後の題材や生活の中で様々な様相を見せると考えられる。

その現れとして広がった価値観の中でも、常に自分の思いや表現にこだわり続ける姿が見られた。子どもの見せた取り組みの様子や学習カードでの記述、そして何よりも作品から個々のこだわりが見られ、そのこだわりが他へと影響を与える様相も見られた。例えば、11児が初めて行ったペットボトルとプラスチック板に穴をあけ、モールで接合する方法(写真10)は、4年生としては難しい方法であるが、11児がその方法にこだわり、試行錯誤しながらつくったことが10児や19児へと広がっていった(写真12)。

5～7時において、投光器付ホワイトボードやクリアボードを設置したり、自らの作品の変容が見えるように学習カードを工夫したりしたこと、相互鑑賞の場や自らの進展をふり返る場を適宜設けたことが、子どもの造形に対する価値観を広げたといえる。しかし、学習場面での子どもの取り組みを見つめ、その中にある「学びを深めようとする思い」のよさを全体に広げようとした教師の授業中における即時フィードバック(資料4)は、個々の造形への価値観を広げ、創造性を培うことに直接つながったとは考えにくい。個々のどんな学びを深めようとする思いのよさ取り上げるか、また、どのようにフィードバックしていくか、加えて、共有化できるような手だてとといった点をさらに実践の中で考えていかなければならない。

③ 自らの学びをふり返る活動

エ 自らをふり返り
自分の価値観の広がりや創造性の高まりを認識する場で

- 友達や前の自分と比べ「透き通る・反射する」という視点で自分の表現を見直している
- 大切にしたいことを視点に 自分ならではの虫の 互いのよさや美しさを味わっている

題材を通し、学習カードを用いて毎時間ふりかえりを行ってきた。カードに記述された内容は、子ども一人一人の学習の足跡である。

ここでは、5・6時のふりかえりカードの記述から自らの高まりをどうとらえているか、また、題材の終わりで

の子どもの思いについて考察していく。

下の表 16 は、5・6時終了時における子どものふりかえりである。「今日の学習を終えて、3つの大切にしたいことをポイントに気づいたことをくわしく書きましょう。」の問いに答えたものである。

今日の学習を終えて 3つの大切にしたいことをポイントに気づいたことをくわしく書きましょう		
1	昨日と比べてどこから見ても考えたら昨日とものすごくかわりました(セロハンを中に切って入れる カラーシートをほとんどペットボトルにつけるなど)■	18 羽のところをキラキラ折り紙できれいになりました●
2	昨日までペットボトルの全体にビニールテープとか 一つもはってなかったから 今度からペットボトル全体にいろいろはっていききたいです■	19 友達の良いところを昨日は少ししか見つけられなかったけどたくさん見つけました
3	アルミ線のさし方によって中の紙が奥にいたりいかなかったりする■	20 昨日までの自分はセロハンを中に入れていんだけどどうしようかな入れないところかなと思っていました でも今日最初にみんなて話し合っ上部分の部分を切って入れるという意見が出てやってみるときれいになりました 接着剤ですという意見が出てきましたかわたしにはテープがあったのでテープでしました▲■
4	がんじょうにきれいに作りたい 昨日ははったりしていたけど今日はきれいなビー玉とおはじきを使ってとてもきれいでよかったと思えました●▲	21 昨日はペットボトルの中にほとんど何も入ってなかったけど今日色つきのペットボトルやセロハンを入れたらきれいになりました■
5	羽をつけるのが大変だった ガラッと印象がかわった▲	22 中にセロハンをつめたら「どこから見ても反射」になったのでよかった(セロハンを詰めたら反射することに気づいた) ●■
6	ちょっと他の工夫をしたら(カラーシートをデコレーション)光を当てるとすごくきれいに反射した 前は反射しなかったのに?●	23 材料選び→接着剤がないとくっつかない材料をはるのが難しい 接着剤→中に入れるのが大変 どこから見ても光にこだわる ●▲■
7	昨日はほとんど中に入れるだけだったけどとんとん今日はまわりにはっていききました だから中に入れたら下に行くけど上にしたらそのまま残ってきれいになりました■	24 全体をにぎやかにはるところを汚ないように▲■
8	昨日と比べてなんか角がついてかっこよかったのと足の針金に金をつけたら さびしいところがピカピカになった●■	25 とちゅうにやけどをしてあんまりできなかった
9	どこから見ても昨日は光があまり通らなかったけど今日ははんだごてで穴を開けて光を通せたのでよかったです■	26 昨日と比べて透き通る 反射するをできるといいしより明るくにぎやかにすることができて上手く工夫することができてよかったです■
10	昨日は「どこから見ても～」がダメだったけれど今日は裏側ができたのでよかったです さみしくなくなり昨日とすごく変わりました■	27 材料選びができた あといろいろなものを付け足すことができて前よりもカラフルになった●
11	前はちょうのはねにも模様なかったけど模様をつけたからきれいになりました■	28 昨日は地味でいやだったけど友達から交換とかしてもらって明るくなった 接着剤でセロハンとプラスチック板をくっつけたら乾いてくうちにはかかれていった▲
12	初めは羽をつけないと思っていたけど友達の虫を見て羽をつけたらかっこいいなと思って羽をつけました■	29 自分だけのことをするだけじゃなくて人のことも!
13	ホログラム包装紙(クリア)をのりでつけたらホログラムが見えなくなってしまった 少し汚くなってしまった▲■	30 今日はどこから見てもにこだわりました なのでペットボトルの中にキラキラ折り紙を入れてどこから見てもよくなりました とても細かかったです■
14	虫の腹にセロハンとナイロンをつけたのを付けたら「どこから見ても」が上手にできました■	31 足にモールをまきつけたらキラキラしてすてきでした 羽の下の方にキラキラの折り紙をくっつけたらちょっと目立つようになりました■
15	どこから見てもきれいになるよう裏にもテープをはってきれいにした■	32 羽を上手にできた モールですると動く どこから見てもペットボトルの中にカラーセロハンをいっぱい丸めて入れて広がったのが全体できれいでした 前ははるだけだったけど今は入れることともできました■
16	どこから見ても 接着剤合 材料選びはかんペキパーペキでしたあとは仕上げをがんばりたいです 前と比べたらよく透き通って反射していました●▲■	33 目立つようなきれいな虫になりました
17	昨日よりカラフルになった■	表 16 5・6時の各自の気づき【No.3学習カードより】 網掛けは前時の取り組みと比較しているかと判断したもの

表 16 からは、自分の作品や取り組みを見つめて気づきを記述している姿が見て取れる。3・4時での同じ問いにおける回答(表 9)と比べてみると、より多くの気づきがある。これまで述べてきたように、めあてやめあてを達成するために大切にしなければならないことを意識し、それぞれの価値観や創造性を駆使して作りあげてきたからこそ、自身の学びの気づきとして認識することができたと考えられる。特筆すべきことは、「気づいたこと」という抽象的な問いに対し、26人(表中網掛けで示す)の子どもが、前回までの自分の取り組み・作品と今の取り組み・作品とを比較し、気づきを記述していることである。時間割の都合上、3・4時と5・6時が連続した2日間であったことを差し引いて考えなければならない。しかし、学習カード(資料 5)を毎時間使い、ふりかえりを続けたこと、製作過程の作品の記録を残して比較できるようにし

この学習を終えて変わった自分や新しく発見した自分について「くわしく」書きましょう。			
1	変わった自分は前までよく考えないでつくっている途中で考えていたけどでも4年になって考えてやるようになりまして☆	18	虫の羽がきれいになった 光を当てたら反射するようになった 工夫するようになった★☆
2	ほくは羽だけをかつよくしたのでペットボトルのまわりがなにもにぎやかになってませんでした 今度からペットボトルのまわりをにぎやかにしたいです	19	欠席
		20	前までは「がんばるぞ!」と思ってつくっていたけれど今は「気持ちよこめてやるぞ!」と思っていました☆
3	ほくはこの虫づくりで材料選びのコツや接合接着のコツ どこから見てものコツの3つが完璧じゃないけどできた★	21	セロハンを入れる時は細く丸めれば中に入れると広がるからその入れ方はいいと思いました 羽にペンでぬったりセロハンや折り紙をはつたらもっとよくなるということを発見しましたものにものをはる(例えばボールにセロハンをはつたり)工夫やリボンのはり方の工夫などを見つけることができてよかったです 前よりもはることやぬることを丁寧にできるようになったと思います よかったです☆
4	ほくはつくるのが大好きになって得意になりました 発見したことはこんなペットボトルでこんな虫ができるんだーと発見した★☆		
5	材料の使い方をくわしく勉強できた★	22	「材料を選び大切なことに気をつけてやる」ということを守れた(今まではちょっと違った感じだったけど...) 今まではイメージに似たようなものじゃなくきたなくなってしまうけど気をつければきちんとできるんだ!ということが分かった(ってよかった)★☆
6	人のいいところを見つけるのが上手くなった それとかいろいろこうしたらいいとかわかるようになった☆◆		
7	全体的にきれいになった 光と虫がとても似合っていそう 光が当たるとところ明るく見える★	23	目標に向けて一生懸命作品をつくれるようになりました 私はいろいろなところにビーズをつけるのが好きなことに気がつきました すてきな作品を見て細かいところまで見るのがとくいになりました☆
8	接合接着とかしたこともなかったけど考えてみればすぐにできるようになった★☆		
9	いろんなことを考えてつくるのが分かりました(あとのこと)☆	24	反射するものや透き通るものがどういものなのかがはっきり分かりました きれいな虫になった★
10	変わった自分は何にことにもチャレンジし自信をもちつくることで 新しく発見した自分は何もしていない自分流のことをやったことです(カプセルの中にビー玉をいれるところ)☆	25	この授業で使ったものもおもしろいものになるんだなと思ってものを大切にできるようになった★☆
11	はねをモールで付けるのをほめてくれて新しい方法を見つけるのはいいなと思いました◆	26	最初は上手く反射させたり透き通らせてつくることができなかったけど上手く材料を使ってそういうことを少しずつ増やしていけたのでよかったです★
12	いろんな組み合わせをするときれいになったりできると分かりました 3年生よりも友達のいいところなどを見つけれられるようになりました これからも自分のいいところや友達のいいところなどを見つけたいです きれいな虫ができてよかったな 今日光の虫の最後だったのでいつもより集中できました★☆◆	27	カラーシートをXのふう違う色でやったのが自分流です 円いカラーシートをはつた★
		28	初め地味でいやだったけどつくっていくときれいになって図工が(前よりも)大好きになった☆
13	あるものを使えるようになりました☆	29	家から持ってきた材料でたくさんの工夫ができた★
14	いつもより真剣に集中して今日の2時間の図工を本当にがんばったと思う	30	虫の中にも材料を入れると自分流の虫ができる そして自分もそのことで学んでいけるのが分かりました
15	欠席	31	足にモールを巻きつけたらみんなに広まってきて私をよく見てくれたんだなあとと思いました 新しくキンピカちょうが表れた!★◆
16	体の中 外にいっぱいカラーシート カラーセロハンをつけて光にこだわる完璧な虫をつくれました めあてもバッチシ守れました★		
17	はめたりくっつけたり入れたりするだけでこんなにきれいなものだからこれからもこういうことを生かしていきたい★	32	私は一番最初何を入れてどうしようと迷っていました でも友達アイデアをつかんでコツもすっかりつかみえました 考えて切り込みをいれるとかどんどん上達していきました そして新しく羽にマジックをいっぱいぬってすればすこく光が透き通ってとっても楽しい虫になりました 他の図工の授業も楽しいけど(虫)の授業はいつもより楽しかったです★◆
表17 学習をふり返って【No.4学習カードより】		33	カラーセロハンをどうしたらきれいになるか考えた たぶん自分流になった★

変わった自分や
新しく発見した自分について(人)

大切にしたい3点を視点に(★)	★★★★★ ★★★★★ ★★★★★ ★★★★★ (18)
これまでの学習との比較を視点に(☆)	☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ (14)
友達とのかかわりを視点に(◆)	◆◆◆◆◆ (5)

表18 変わった自分や新しく発見した自分についての様相【7時のふりかえりより】

る。これまでの学習と比較した子どもの記述を見ると、取り組み方についての変容に関するものが多い。つくることに対し、自信をもったり、楽しみを増やしたりしている思いが見て取れる。題材全体を通して皆や一人一人がこだわりを持って取り組んだこと、そのこだわりが光の国からやってきた虫という具体的な形に表れたことがその思いを抱かせることになったといえよう。

友達とのかかわりを視点にふり返ったのは5人である。「いいところを見つけるのが上手くなった」「ほめてもらったので新しい方法を見つけるのはいい」「自分の考えた方法が広がっていったうれしい」「これから、自分のいいところや友達のいいところを見つけていきたい」「友達のアイデアを生かすことができた」など、集団で学ぶよさを感じた子どもの記述がある。表17への記述はないが、これまで考察してきたことから、多くの子どもが集団で学ぶよさを感じ、集団で学ぶからこそ変容していったととらえることができる。

学習カードを用いて、製作の過程に点在する個々の価値観の広がりや創造性の高まりの認識をつなげようと考え、本実践に取り組んできた。「前の自分と今の自分との比較」「今の自分とこうなりたいと願う自分との比較」「自分と他との比較」を自分の作品の見直しや製作過程の写真、相互鑑賞を通して行ってきたが、子どもがその点在する価値観の広がりや創造性の高まりをつなぐことができたかについて考えると、まだまだの感がある。一人一人の学びの進展を把握し、個の願いをくみ取る手だてがさらに必要であったと考える。

(6) 成果と課題

①～③までの考察から、本実践を通して、子どもが「比較」しながら自らの表現をふり返り、よりよい表現に向けて学びをつくりあげていく姿に迫ることができたのではないかと考える。「学びを深めようとする思い」を育むための手だてとして設定した「比較を通して自分らしさの認識を促すこと」「見取りと評価のフィードバックを生かすこと」「サイクルモデルを意識し、4つの場を活用すること」についても、その設定や構成など改善の余地は多く残しながらもその有効性を確認することができた。

中でも、「比較を通した自分らしさの認識」や「4つの場の活用」に関しては、一人一人の学びや集団としての学びを支えたと考える。「個々の学びの進展を記した学習カード」や「投光器付ホワイトボード・クリアボードを利用した効果を試す場」「相互鑑賞の場」で常に比較しながら、子どもが見方・感じ方を広げ、「学びを深めようとする思い」を育んだのではないかと考える。

しかし、次に示す4点の課題が明らかになった。

1点目は、「見取りと評価のフィードバック」についてである。

子どものふりかえりや日記の記述から、本実践で考察を重ねてきたように教師がその記述に隠された「学びを深めようとする思い」を読み取ってきた。その見取りを次時の授業構成に生かしたり、学級通信などで紹介し「学びを深めようとする思い」のよさを広めたりしてきたことは、成果として挙げられる。だが、製作の過程の中にある「学びを深めようとする思いのよさ」を見取り、子どもにとって有効性のある即時フィードバックを行うことができなかった。本実践で行ってきた即時フィードバックは、個に対しての「取り組みを認める」という意味において有効であったが、②で考察したように、全体に広がらず、全体に対し有効に働くものには成り得なかった。それは、「学びを深めようとする思いのよさ」を細かく見取ることができなかった教師の見取りの弱さとフィードバックする手段の少なさが原因であると考えられる。図画工作科は、一人一人に自由に開かれた学びの場である。その場において、全体へ広がるフィードバックのあり方を今後も模索していかなければならない。

2点目は、題材の設定についてである。

本題材では、子どもが「透き通る」「反射する」材料を選ぶことを大切にしたいことの一つとして設定した。しかし、自由に材料を選ぶことで、大切にしたい他の「接合接着」「どこから見ても」の2点がぼやけてしまった。困ったこと、新しく発見したことが皆にとって共通したものになりにくかったと思われる。ある程度限定した材料の中で製作すれば、大切にしたいことの3点について共通の、そして、より深い学びができたのではないかということである。他題材において、材料や表し方を限定することによる学びの深まりについて考えていきたい。

3点目は、造形から受ける感じや造形に対する思いを表現する言葉に関してである。

子どものふりかえりの記述や発言には「きれい」「すごい」「かわいい」「格好いい」の言葉が多く見られた。しかし、同じ言葉であっても子ども一人一人がとらえた、感じたことや思ったことは違う。造形的な価値観を広げるためには、その時々一人一人が感じたことや思ったことを適切に表現する造形的な言葉を豊かにしていかなければならないと考える。「～だから、きれい」「～から、すごい」など、どうして「きれい」「すごい」と感じたかを補足する言葉や自分が感じたことや思ったことを単なる「きれい」という言葉ではなく、他の言葉で表現できる豊かな表現力を培っていかなければならないのではないだろうか。

自分の作品を眺め改善点はないか何度も見直しをしたり（「むすんでつないでそしてそれから…」）と他とかわかり、自分の取り組みや作品を見つめ、「自分ならではのもの」を楽しみながらつくっている様子が見える。「絵の具マジシャン」では、2時間という時間の中で、自分だけのテクニックを見つけようと33人の子どもが黒板を埋め尽くすほどの数のテクニックを試みていたり、その後の2時間での作品製作では、スポンジ一つで何色も色を重ね、時間ギリギリまで描き続けたりとどの子どもも集中して取り組んでいた（写真14）。

次の「顔・カオ・かおがいっぱい」でも、計136枚の写真を撮り、校内のあらゆるところに顔を発見し喜ぶ姿があった。「むすんでつないでそしてそれから…」では、材料をどこで調達するかにもこだわり、仲間とかわかり、作品を見合いながら、製作に没頭する姿が見られた（写真15）。

表19は、3つの題材における学習のまとめ「学習を終えて、変わった自分や新しく発見した自分についてくわしく書きましょう。」に記述された子どもの思いの抜粋である。

この記述の中には、「自分にとって新しいもの」「自分ならではのもの」をつくり出そうとする思いやつくり上げた満足感が表れている。

【絵の具マジシャン登場（心を伝える） 5月題材】

目標

- ・様々な表現方法の美しさやおもしろさを味わい、その効果を確かめながら、自分ならではの表現を楽しみ、色や形、画面構成を工夫しながら表すことができる。
- ・水彩絵の具の特徴を生かし、筆以外の用具の扱いにも慣れ楽しみながら、その使い方を工夫して表現することができる。

学びを深めようとする思い

- ア、「自分にとって新しいもの」をつくり出そうとする思い
- ・水彩絵の具の特徴を生かして、様々な技法を組み合わせたり新しい技法を自分なりに考え出したりして表現しようとする。
- イ、「自分ならではのもの」をつくり出そうとする思い
- ・他とかわかり合いながら、互いの技法、色や形、画面構成などを視点に比較し、他とは違う自分だけの表現を見出そうとする。

【顔・カオ・かおがいっぱい（感じ方を広げる） 6月題材】

目標

- ・身近にある様々なものをかおに見立てることを楽しみ、ものの見方や感じ方を広げるとともに、それぞれの見立てを楽しみ、自分なりの感じ方のよさを味わうことができる。

学びを深めようとする思い

- ア、「自分にとって新しいもの」をつくり出そうとする思い
- ・生活の中で、様々なものを断片的に見る楽しさを見出そうとする。
 - ・互いの見方、感じ方から、新しい見方、感じ方を得ようとしている。
- イ、「自分ならではのもの」をつくり出そうとする思い
- ・他とかわかり合いながら、自分ならではの見方や感じ方のよさを味わっている。

【むすんでつないでそしてそれから…（くらしをつくる）

6月題材】

目標

- ・枝材の組み合わせや色系などの巻き方、編み方、結び方、色の組み合わせなどを工夫して、どこから見ても美しい自分ならではの形をつくりながら、つくりかえていくことができる。
- ・ほどけないようにしっかりと結びつかけたり、切る、曲げる、巻くなどの形づくりを丁寧に行っていくことができる。

学びを深めようとする思い

- ア、「自分にとって新しいもの」をつくり出そうとする思い
- ・枝材や色系などの組み合わせを楽しみながら、つくりながら変わっていく自分に気づいている。
- イ、「自分ならではのもの」をつくり出そうとする思い
- ・他とかわかり合いながら、互いのよさを認め合い、表し方の工夫、進展してきた表現を視点に他とは違う自分だけの表現を見出そうとする。



資料7 本題材後の題材【目標・学びを深めようとする思い】

写真13 本題材後の題材【子どもの姿】

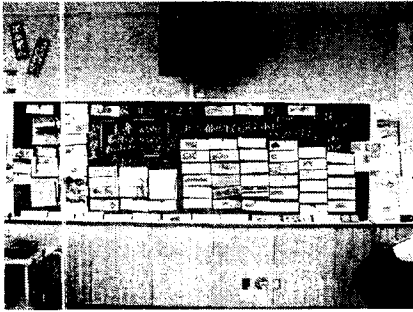


写真14 「絵の具マジシャン登場」
上 黒板いっぱいのテクニック
下 スポンジ一つで描き上げる

写真15
「むすんでつないでそしてそれから…」
かかわりながらつくる

「栄養をもらって」「いろいろな角度から見ると」「グループでやると自分が見つけられなかったところもヒントをくれた」「一つの顔のなかにもう一つの顔」「編む・巻くを発見できた」など、他とのかかわりの中でよさを見つけ、心が動かされたことが記されている。

1学期を通して、子どもの姿や発言から「学びを深めようとする思い」のよさを見取ることができた。それは、その場その場だけではなく、こうして子どものつくり上げたもの、書き綴ったものの中にある「学びを深めようとする思い」のよさをゆっくりと時間をかけ、紐解いていった結果である。

「あの時～をがんばっていたね」「前は～に苦勞をしていたけれど、今は～」などの長期にわたる子どもの

の変容をとらえたフィードバックのために、そして、教師自身の学びの記録のために、これからも子どもの「学びを深めようとする思い」のよさを見つめていきたいと思う。そうすることで、「自分にとって新しいもの」「自分ならではのもの」をつくり続けようとする思いが、子どもの心の中に編み込まれていくのではないだろうか。

各題材におけるまとめ (抜粋)		
「絵の具マジシャン登場」(心を伝える) シャカシャカテクニックを緑とピンク(など)を重ねると「春」という感じが出ると発見できた 3組さんのNさんの作品を見て栄養をもらったこと 自分流にこだわってたくさんのテクニックをやりながら見つけられたこと スポンジで描き上げる(ステンシル)へうですーっとテクニックなど いろんなことをすぐにチャレンジして新しいことを見つめるという自分を発見したし そのおかげでこの「絵の具マジシャン」を満足して終わらせることができました スポンジですーっとかいてみました すーっとテクニックのようになりました でも すーっとテクニックは端が細くなるけれどスポンジだとなりませんでした 新しく発見するとうれしい気分になりました だから前までは「つくる」という気持ちだったけれどこれからは多分「なにを発見しないかな」という気持ちになると思います そこが変わったと思います 明るい色だけれど水の量によっては少しくったりやわらかくしたりして めあて通りの作品ができました	「顔・カオ・かおがいっぱい」「感じ方を広げる」 身のまわりにはいろいろな顔があったこと よく見てみると今まで気づけなかったけどたくさん顔があったこと 身近なところに顔があるってすごいなあと思いました 自分が見つけた以外にも40種類くらいあるのかなあ グループでやると自分が見つけられなかったところもヒントをくれたのでグループでやるっていいことだなあ 探しながら「マンホールとかいろんな身近なところによ～くと見ると顔がある なぜ?」と思いました 真っ正面から見たら何も分からなかったのでもいろいろな角度から見るとたくさん顔がありました 「不思議だな…」 身近にはたくさん顔がくついていると知って「ははー」と思いました 例えば一つの顔に見えた中にもう一つありました それこそがすごい!といえます そしていっぺん見たらもう全部顔に見えるのでとっても不思議です 少し視線を変えたいっぱい見えることはすごいと思います 「顔って見つかりにくそうだな」と思っていたけど学校内外にたくさん見つかったよかったし 自分が顔を見つけた時は「そういうものを見つければいいんだな」と思いました さかさまにできたし工夫も考えてやりました 家の周りにもいっぱいあるからそのこともやってみていす	「むすんでつないでそしてそれから…」(くらしをつくる) 自分はぶら下げる(ぶらぶら～)が好きになりました 「やってみよう!」と思って1本のリボンからもう一つの木に付けてリボンを結んでみたら見たこともないすてきな作品になりました なんでもチャレンジしてみる自分が変わったと思いました 友達のアイデアを自分の作品に変える自分(変わった自分) Tさんの「木で音が鳴る」ということをまねして音が鳴る仕組みもつくりました 前はむすんでつないでということしか使っていなかったけど 編む 巻く ということを発見できました 栄養をとる時間はつまらないと思っていたけど 今は栄養の時間が欲しいと思うようになってきました これから結んだりする時は自分におまかせ なぜかという自分はこの授業で結ぶのがとても上手になったから

表19 各題材における学習のまとめ (抜粋)